

巻頭言

～Toward a new era～

機器分析評価センター長 栗原 靖之

機器分析評価センター長に就任して三年が経ちました。この三年を振り返ると、センター教職員や我々を支える事務組織の献身的な努力のお陰で全学センターとして果たすべき役割を達成しつつある実感があります。利用者数、その所属部局の多様性や機器利用実績も年々向上しています。また、センター運営体制の適正化の目標もほぼ達成することができました。今後は、好転した流れを止めることなく、現在の取り組みを継続することで学内共同利用センターとして担う役割を果たしてまいります。

本学だけでなく我が国の国立大学を取り巻く環境は国の財政事情や景気動向、少子化などにより年々厳しくなっています。この荒波は新規機器の導入、技術職員の人材や運営予算といった形で本センターにも容赦なく押し寄せており、このまま活性が下がっていくのか、上昇していくのかの岐路に立っているといえます。あるべき将来のセンター像を考えると、様々な課題を乗り越えるために慣例に囚われない新たな仕組み作りが喫緊の課題と考えています。センター内部の運営体制が整った今、我々は次のステップに進む強い決意を持っています。

次のステップに向けて、センターが新たな役割として積極的に取り組むことが二つあります。まず、機器分析を通じた学生教育への貢献です。学生に向けて機器の分析能力や操作技術を向上させる教育を施すことができれば、技術職員の負担を軽減して人材不足を補うとともに、高度な能力や技術を持った学生を社会に輩出できるようになります。二つ目は外部との連携強化です。国立大学の分析センター間のネットワークを実質化しつつ強化することは機器の導入や貸借、国の施策に反映させて予算獲得を図ることができます。さらに、神奈川県内の公的機関や大学とのネットワークをより強固にしていくことは機器の貸借だけでなく、地域企業との連携を深めることにつながります。幸い、分析ニーズを持った企業が神奈川県には多くあるため、共同研究や分析コンサルティングを通して外部資金の導入を期待できます。

こういった課題への積極的な取り組むために、これまで以上に関係者の皆様にはご指導、ご支援くださるよう心よりお願い申し上げます。